

# 校長室の窓から

中野区立塔山小学校長 村越昌昭

平成20年5月27日 NO.6

## うれしい電話

23日(金)に一本の電話が入りました。北新宿にお住まいの方からの電話でした。それを聞いた私は、子どもが何かしてしまったのかなと思いました。(このように思うこと自体が子どもたちを信じていないことですね。後から反省をしました。)



心配しながら電話をしてみると、優しくなお声の男性が電話口に出られました。お話を聞いているうちにとってもうれしい気持ちになりました。そのお話というのは、次のようなものでした。

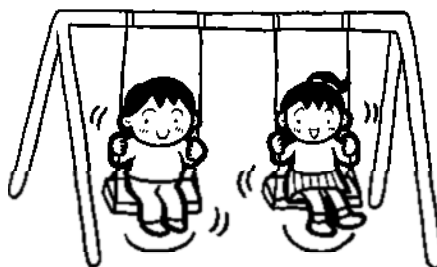


電話をくださった方は、神田川を渡った新宿区側にある新開橋公園を管理されている方でした。その方の奥様が公園がお菓子の包装紙などで散らかっていたので掃除をしていたそうです。そこに、本校の1年生の女の子が3人遊びにきました。女の子たちもお菓子をもっていたので、食べた後のゴミはどうするのか奥様が聞いたそうです。女の子たちは、ゴミは持ち帰

るかゴミ箱に捨てて帰りますとこたえました。その受け答えがとってもしっかりしていたのでまず感心したそうです。3人は掃除をしている奥様に、ゴミを拾っているのか確認をした後、自主的にゴミを拾って公園をきれいにするお手伝いをしたそうです。また、3人は公園から帰るときには、丁寧にあいさつをしていったそうです。お二人の話では、何年も公園で遊ぶ子どもたちを数多く見てきたけれど、こんなに素直で礼儀正しい子どもたちと出会ったのは初めてだということでした。子どもたちの受け答えやあいさつ、行動がとってもよかったので本校の電話を調べてわざわざ連絡してくださったのです。ご夫婦はとっても喜ばれていて、こういったことはぜひとも学校に知らせて校長先生からほめてもらおうと思ったそうです。



学校にかかってくる電話のうち苦情の電話は時々ありますが、なかなかほめていただく電話はないのが現状です。それだけに、とってもうれしいことです。3人の1年生のおかげで、塔山小学校も一緒にほめられたようで、とってもさわやかな気分になりました。ちなみにこのときの3人の女の子は、1年2組の西村さん、仲村さん、松本さんだそうです。



これからも、うれしい電話を待っています。些細なことでもよいのでお知らせください。

## 新しい指導要領とは

「指導要領が変わることで、何が変わってくるのか。」何回かに分けて説明をしていきたいと思います。

指導要領が変わると、内容の一部だけが一人歩きしてしまうことがよくあります。例えば、外国語活動という新しい内容が示されていますが、外国語活動＝英語教育ととらえる動きがあります。これは、指導要領で外国語活動として示されている内容からすると違います。

指導要領に示されている外国語活動の目標には、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」と書かれています。どこにも英語と記されていないし、語学教育をするという意味でもありません。(もちろん英語を取り上げてよいのですが。)

国際理解の一環としての言語や文化理解、物怖じせずに外国語で表現しようとする態度や外国語によるコミュニケーション能力の素地を養うことをねらいとしています。例えば、外国の人と遊びや歌などを通して交流する中で、外国語でのやりとりをするという活動が考えられます。外国語で簡単なあいさつや会話をできればよいということになりますね。

---

## 運動と科学

昔の運動指導には、運動の精神論が大きな位置を占めていたと思います。根性、気力こそ自らの記録更新には必要であるという考え方です。必死にがんばれば記録は上がるという考え方は、間違いではありません。しかし、最近ではそれだけではなく運動を科学的に分析することによって、より記録の更新を図る取り組みがなされています。体の動かし方、筋肉の鍛え方、効果的な練習方法、理想的なフォームづくり、用具や服装の改善など様々な取り組みがあります。最近話題になったことでは、競泳用水着があります。ある水着を着ると、記録更新ができるという話です。何か夢のような話でもあり、水着で差が出てもよいのかなどという疑問も感じてしまいます。

さて、一般の小学生の運動にそこまで考えなくてもよいことですが、人の体の仕組みや特性を理解することで記録の更新ができるというのであれば、ぜひ取り入れていきたいですね。児童朝会で「走ること」について話をしました。人は、誰に教えてもらわなくても見よう見まねで歩き始め、走ることもできるようになります。走ることは、ただ走ることを繰り返すだけでも向上しますが、たくさんの外遊びをするほど、体を自由にコントロールして走ることができるようになります。子ども同士が追いかけてっこを全力でやる効果は大きいのです。しかし、現在の子どもたちがどこまでいろいろな遊びで走り込んでいるかという点では疑問を感じます。そうした子どもたちのために、少しでも速く走るためのコツを教えました。走るとき左右の腕をほぼ直角に曲げ、腕の振りを後にしっかり振るように話しました。右腕を後にしっかり振ると、左足が自然と前に出ます。その反対も同様です。これは、体のつくりを利用した走り方です。運動会でぜひ実践してほしいです。